

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

たくさんの出会いと 支えに感謝して

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **三浦早貴子**

はじめに

私は、6年前に3年次編入し、今年の春に通信教育学部社会福祉学科卒業と共に、社会福祉士国家試験に合格しました。日頃、小学校教諭として子ども達と関わる中で、社会状況の変化とともに子どもの困り感も複雑化・多様化しており、その対応の難しさからスクールソーシャルワークを学びたいと思ったことがきっかけでした。その旨を、スクールソーシャルワーカーでお世話になっている方に相談したところ「スクールソーシャルワークは、あくまで社会福祉の領域の一つであり、社会福祉全体を理解しなければ、その知識は中途半端で生かすことは困難ではないか。」というご助言をいただいたことで、初めて社会福祉の存在を意識し、大学での学びにつながりました。

入学当初予定していた計画よりも、仕事と両立を図りながら学習することは大変険しい道のりでした。決して自慢できる学生生活ではありませんでしたが、多くの方々の支えで卒業できたことへの恩返しという意味で、これまでの学びの振り返りと失敗談を書かせていただければと思います。

学習への取り組み

学習は主にスクーリングとオンデマンドで取り組みました。スクーリングの受講は、年齢や居住地、職業等様々な状況の方々と一緒に学べるということで、グループワークや演習を通して、物事を多面的・多角的に捉える視点を養うことができました。また、先生方の講義を直接伺い、その思

いや熱を感じることで、ソーシャルワークの幅広さと奥深さ、社会福祉士としてのあり方を学ぶことができました。その後、新型コロナウイルスの影響により、全てオンデマンドとなりましたが、自分のペースで進められるという点から、仕事等の兼ね合いを考えると学びやすく、単位修得の多くはこの方法となりました。

失敗その1……ついレポート提出を先延ばしにして、それが積み積もって最終的には国家試験の受験勉強と重なり、大変苦しい状況に陥りました。やはり、講義の受講と共に知識の収集・整理・理解の深化のためにも、レポートはすぐに取り組むことが大切と痛感しました。

社会福祉援助技術実習

卒業までに6年かかった理由の一つに、仕事の関係でなかなか実習する機会がなかったことがありました。しかし、昨年度、職場の管理職と教育委員会に「社会福祉の学習は今後の学校教育で生かされるもの」と理解いただき、社会福祉援助技術実習を受けられることになりました。このとき、実習に臨める喜びとともに、社会福祉が学校現場において必要であり、この学びを還元していく責務を改めて実感しました。昨今の状況から学内実習という形式になりましたが、大変有意義なものでした。特に、私のように社会福祉現場の経験がない者にとっては、必要な実習項目や学習課題を網羅した内容を、他の実習生の方々とグループワークや先生方のスーパービジョンを通して、これまでの学びを一つ一つ繋げながら社会福祉士としてのあり方を形作っていくような感覚で実習することができました。

失敗その2……毎日実習課題のワークシートと実習記録をパソコンで作成しましたが、「情報収集の見通しが甘い&遅筆&打ち込みが遅い」三重苦の私は、大幅に時間超過してしまうことが少なくありませんでした。先

生の温かい励ましやグループワークでの情報交換で何とか乗り切ることができました。充実した時間を過ごせた出会いに感謝しています。

国家試験への取り組み

社会福祉援助技術実習の機会をいただいたことから、大学の卒業と社会福祉士国家試験合格も絶対達成しなければ……と意気込み、様々な教材や模試、アプリ等々準備したものの、学習計画の見通しが甘く、実際活用できたのはその半分程度でした。

それでも、今回国家試験に合格できたのは、3つの要因があったのではないかと思います。一つ目は、今回の試験の出題傾向です。合格基準点の高さのとおり、全体として解きやすいといわれる問題が多かったことに救われました。二つ目は、一緒に勉強する仲間がいたことです。我が家の子ども達がそれぞれ高校と大学受験のため、12月頃から3人揃って追い込みに入りました。「受験は団体戦」とはよく言ったもので、勉強モードになれた環境に救われました。三つ目は、自分の得意を生かした勉強法に絞り込んだことです。「超短期集中型」「聴覚言語タイプ」であることから、短期間に一問一答で語彙を増やししながら、過去問や模試の徹底攻略に取り組みました。その際、忘却曲線を意識したローテーションが有効でした。ある意味ラッキーが重なった結果でしかありませんが、自分の得意を知って生かすことも自己覚知の一つになったかもしれません。

失敗その3……生かしきれなかった教材や学習機会の多さにつきます。特に、大学の国家試験対策プログラムは大変充実していたので、もっとうまく活用できればよかったと反省しています。仕事と学習の状況に加えて自分の年齢や体力、気力も踏まえてプランニングする必要性を痛感しました。

おわりに

このように社会福祉に関する知識や経験が全くない中で、一から学んで卒業できたのは、大学の教職員の皆様、共に学んだ学生の皆様、職場や関係機関の方々、そして家族の支えがあったからこそと感謝しております。この機会をお借りして心より御礼申し上げます。今後は、学校教育と社会福祉の視点をもつ強みを生かし、多機関連携によるチーム学校としての体制づくりと、複雑化・多様化している子ども達の困り感への支援の充実に努めることで恩返ししていきたいと思えます。

最後に、6年間の学びは、社会福祉に携わることの素晴らしさと難しさを知り、志をもって学ぶ方々の姿勢に自分を律することができた貴重な日々となりました。まだまだ見通しが立ちにくい状況が続いておりますが、学びを支えてくださった多くの方々と、在校生の皆様方のさらなるご活躍を心からお祈りしております。

